

Science Report of Kushiro City Museum

# 釧路市立博物館報

NO.421



2018.3

## 博物館の魅力

取材で博物館と関わる機会が多く、この欄を執筆する機会をいただきました。折しも開催中の企画展「釧路市立博物館館報65年の歴史」を見て、1952年に発行が始まった博物館新聞から連なる、通算420号超にわたる歴史の重みをかみしめています。

この1年で、新たな学芸員の着任や、展示内容をまとめた冊子の発行、展示に関連した商品の開発、企画展の開催などを、北海道新聞の紙面で紹介してきました。取材で印象的なのが、展示内容や専門分野について語る、学芸員たちの目の輝きです。説明はよく整理されており、わかりやすく、何より面白い。何気なく置かれている展示物も、一言の解説や裏話が添えられるだけで、より輝きを増すのだから不思議です。好きなことを本当に楽しそうに語る学芸員たちの魅力を、より多くの人に伝えられないか考えています。きめ細かい魅力の発信が、より多くの人を博物館に呼び込むことにつながるはずです。

一方で、膨大な収蔵品を、限られた人員で管理する大変さも目にしてきました。展示されていたアイヌ民族の木綿衣が、世界最古級の可能性が高いと判明した事例を挙げるまでもなく、博物館は「宝の山」です。価値あるものを意義付けするだけでなく、今は何物かわからなくても、いずれ価値が見いだされるかもしれない時に備えて整理し

ておく。すぐの成果には結びつかないとしても、これこそが専門家の仕事と感じ、一端を紙面で紹介したこともありました。

また、博物館友の会が開く「博物館まつり」で、大胆にも収蔵品の型を使って昔の菓子を焼き、来場者に配っていたのには驚きました。戦後間もない時期に食べられた味を再現したものを、現代の子供たちが口にする姿を見て、歴史を後世に伝える手段はこんなにも多様なのかと感心したものでした。全国の鉄道ファンから注目を浴びた簡易軌道の展示や、人気漫画「ゴールデンカムイ」に協力し、博物館の展示物が作中に登場して極上のエンターテインメントの形成に一役買っていることなどを取材していると、釧路を中心とする道東には、まだまだ多くの地域資源が眠っているのだろうと感じられます。

地域の成り立ちや歴史、暮らしぶりを五感に訴え、伝えてくれる博物館は、転勤族でありながら、地域のことを深く知りたい記者にとって、ありがたい存在です。釧路について考えるとき、ふと足が向かったことも、一度や二度ではありません。そんな博物館の魅力が、今後も記事を通じて少しでも伝えられればと思います。

北海道新聞釧路支社報道部 安房 翼

## 3月号目次

### 釧路村天寧自衛隊入口(崖)採集の遺物について

……………石川 朗・澤田 恭平 3

### 企画展「カモにも事情がありまして…～餌から恋の三角関係まで～」

……………貞國 利夫 5

### 企画展「釧路・根室の簡易軌道」鉄道史学会住田奨励賞を受賞 ……石川 孝織 8

### 〈講演録〉むかわ町穂別から「むかわ竜」の発見 ……櫻井 和彦 9

### チャランケチャシ ……加藤ゆき恵・野本 和宏 11

### 博物館ニュース ……12



アイヌ木綿衣特別公開の様子

〈表紙写真〉 アイヌの木綿衣のなかでは、世界でも「最古級」の評価を得ている当館所蔵の木綿衣(色裂置文衣 53304)。釧路市内で収集された、初代館長片岡新助氏のコレクションのひとつです。切伏布にさまざまな絹素材が用いられていることが特徴。博物館では、昨年度に続き今年度も11月3日～12月3日の期間に特別公開をおこないました。(城石梨奈)

釧路市立博物館館報 No.421 2018年3月号 2018年(平成30年)3月31日発行

発行 釧路市立博物館 〒085-0822 釧路市春湖台1-7

☎ 0154-41-5809(博物館)・43-0739(埋蔵文化財調査センター)/ FAX 0154-42-6000

釧路市立博物館Web <http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/>

[museum@city.kushiro.lg.jp](mailto:museum@city.kushiro.lg.jp)(博物館) [maibun@city.kushiro.lg.jp](mailto:maibun@city.kushiro.lg.jp)(埋蔵文化財調査センター)

発行責任者 白幡 敏弘 編集 貞國 利夫・石川 孝織 印刷 (株)藤プリント